

## 鞍月用水を訪ねて

鞍月用水は、金沢市の中心部を流れる、今から約400年前の藩政時代に築造された、大野庄用水に次いで古い歴史と伝統のある用水路です。

鞍月用水の取水口は、大野庄用水の2kmほど上流の犀川右岸にあり、用水路の延長は約15kmで、柿木畠、香林坊の市街地を貫流し、長町、玉川町、六枚町を経由して、金沢市北西部の農地に現在も農業用水として恵みを与えています。

当初は、金沢城防衛のために総構堀をめぐるす目的で、慶長4年(1599年)高山右近に命じて構築されたものを油屋与助という人物により改修されたと伝えられています。

藩政時代は、大野庄用水同様、金沢市北西郊外13ヵ村、8千石余の水田を潤す大用水としての使命を担うとともに、城下の防火用水や菜種油を搾る水車の動力としても利用されていました。

香林坊の裏通りを流れる鞍月用水沿いには現在、散歩道が整備され、せせらぎ通りとして市民に親しまれ、飲食店を中心にブティックやインテリアショップが立ち並びおしゃれな通りとして金沢を代表する街並みを形成しています。

長町の武家屋敷跡を貫流する、大野庄用水が金沢の情緒と風情を醸しているのとは対照的に、鞍月用水は、静かな住宅街や賑わいのある香林坊などの繁華街を滔々と流れ、現代の金沢の街並みに溶け込み市民や金沢を訪れる人々の心に安らぎと潤いを与え続けています。





街中を流れる鞍月用水と由来等を刻んだ石碑



長町界限の裏通りを勢いよく流れる鞍月用水



金沢の繁華街香林坊の裏通り、通称せせらぎ通りを流れる鞍月用水



せせらぎ通りをゆったりと流れ下る鞍月用水



柿木島のビル街を縫うように流れる鞍月用水